

PHP

© PHP研究所 2015
平成27年5月12日発行
発行所は発行第805号
創刊以来2015日
第三種郵便物認可

No.805
定価205円

6

特集

毎日が楽しくなる 前向きカミちぼん!

インタビュー 草笛光子 特別企画 足首まわしでやせる!



夢を追う、
夢を継ぐ

6 よみがえれ！ 和傘

たけざわさちよ
竹澤幸代さん
(和傘職人)

取材・文 社納葉子
写真 清水茂



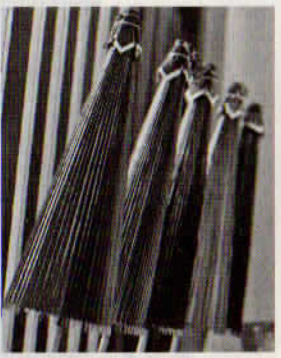
工作好きの少女は、
大人になり伝統の世界へ――。
京都で唯一残る和傘製造元に、
一人の女性職人を訪ねました。

子どもの頃、傘だけを商う店
があった。今や昔話だなあと思
いながら、京都の街なか、大通
りを入ったところに店を構える
日吉屋さんを訪ねた。江戸後期
に創業、今では京都でただ一軒
となった和傘の製造元である。

思いがけず入った
職人の道

迎えてくれた竹澤幸代さんは
京都に生まれ育ち、二十歳でこ
の道に進んだ和傘職人だ。案内
してくれた工房には二本の傘が
骨組みだけの状態で立ててあ
る。「ちょうど骨ができてあ
ったところですよ」と説明して
くれないながら、タビオカ粉から作
った専用の糊で赤い和紙を貼っ

てみせてくれた。お茶席に使
う野点傘だという。竹と糸と和紙
と。完成したらどれほど華やか
だろうとつとりするような美
しさだ。



日吉屋では新しい和傘も販売
するが、修復に力を入れている。
「個人の職人さんまでは把握し
ていませんが、私の知る限り、
修復を請け負っているのはうち
だけみたいです」。

伝統工芸の世界では職人も材

料を扱う店も減る一方だ。その
うえ和紙が破れた程度ならまだ
しも、骨組みまでカビがはえて
いたり骨が折れていたりする傘
を復元するには手間ばかりかか
る。

しかし結婚を機に公務員から
転職した今の当主は「伝統を守
りつつ革新に取り組む」をモツ
トーに掲げ、ゼロから技術を習
得してきた。同じ頃に入社した
竹澤さんも「考える間もなく巻
き込まれました」と笑う。

子どもの頃からものをつくる
のが好きで、夏休みの宿題は真
っ先に工作を仕上げていた。高
校卒業後は京都伝統工芸大学校
に進学する。竹芸コースを選
んだのは、素材としての竹に興

味をもったから。「丸くて堅い竹を割れば、しなりなどを利用していろいろな形ができる。面白く、面白く思いました。」

自分の世界と向き合い続けて

卒業後は作家を目指す道もあった。しかし先輩に頼まれてアルバイトとして働き始めた日吉屋で、それまで触れたこともない和傘を作ることになった。

竹は確かに魅力ある素材だが、扱うにはやっかいだ。ささくれば刺さるし、指は荒れる。竹澤さんも鉈で親指を割ってしまったことがある。だが「竹に血がつくほうが気になって」と言う。それほど、和傘と向き合



えば一心に傘のことだけを考える竹澤さんだが、仕事を離れると心に迷いが忍び込む日々があった。

「特に学生時代の友人たちと会うと、生きる世界の違いを感じてしまつて、自分はこれいいのかと思うことが何度もあ

りました」

会社の話、恋の話、そして結婚の話。二十代の女性らしい話題に距離を感じながら、このままがいいのかと自問せずにはいられなかった。和傘職人という仕事に未来はあるのか。狭い世界でこのまま生きていくのか――。

屈折を抱えながら、それでも傘と向き合う日々のなかで、竹澤さんの職人としての技術や感覚は磨かれていったのだろう。やがて和紙や竹など材料の質にも意識が向き始める。仕事の合間に試作をし、資料を探して読むなどするうち、「豊んだ時にスツキリと細くて美しい傘を作りたい」「幕末に流行った形を

大きい傘で再現したい」と具体的な目標が見えてきた。「今、丈夫で薄い和紙を探して、和紙屋さんと相談しながらいろいろ試してるんです」と指差した先には、何種類もの赤い和紙がぶら下がっていた。

もう迷いはないと言えば嘘になる。けれど「どの世界にいても、みんな迷ったり悩んだりし

ているんだと思うようになりました」と微笑む。「今まで受け身でしたが、もっと表に出ようと考えています。外の世界の人には和傘がどう見えるのかを知りたいし、店舗も充実させたいんです。海外からのお客さんもよく来られますから」。慎重だった口調が、どんどん熱を帯びて饒舌になってきた。

お花見やお茶席、お祭りと日本の文化や暮らしに欠かせない和傘をよみがえらせる。そして忘れられてしまった美しさをあらためて伝えていく。お手軽なビニール傘とは対極にある価値観を守る世界で、竹澤さんは創造の喜びを手に入れようとしている。



1984年、京都市生まれ。高校卒業後、ものづくりの道を志し、京都伝統工芸大学で竹工芸を専攻する。アルバイトとして入社した日吉屋で和傘と出会い、現在は古くなった和傘の修復を中心に活躍中。